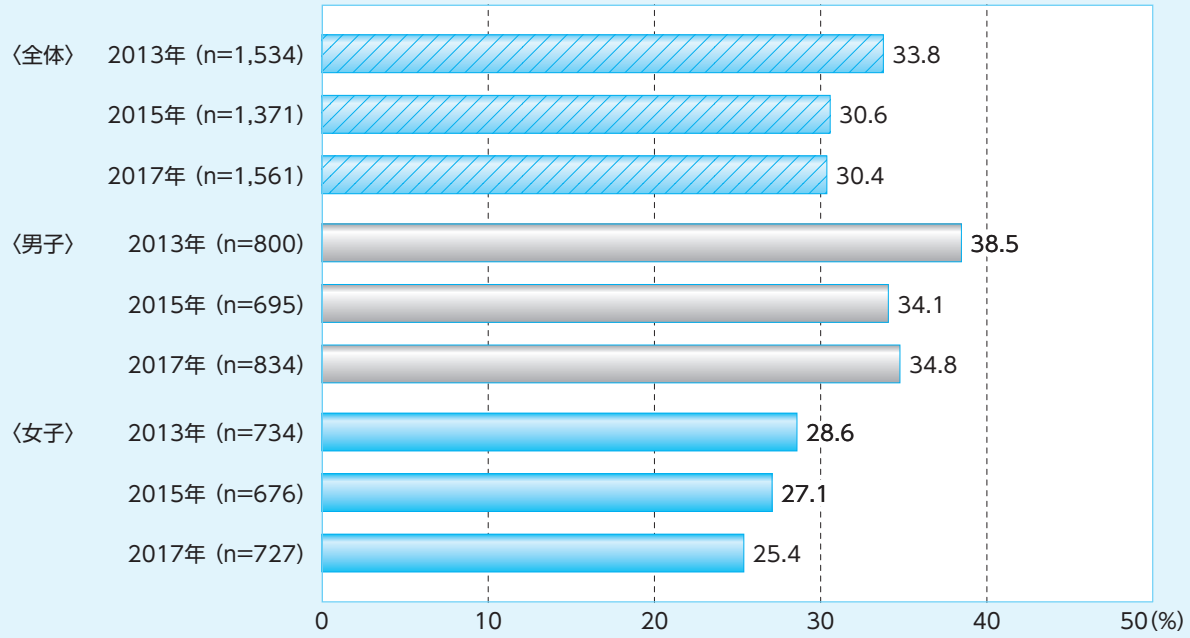
5 スポーツ観戦

5-1 直接スポーツ観戦状況

図5-1と**図5-2**には、直接スポーツ観戦率の年次推移を示した。過去1年間に体育館・スタジアム等へ足を運んで直接スポーツの観戦をした者は、**図5-1**の4～11歳では全体の30.4%であり、わが国の4～11歳の子どもの直接スポーツ観戦人口は262万人と推計できる。性別にみると、男子の観戦率は34.8%、女子は25.4%であり、男子が女子を9.4ポイント上回った。2013年からの推移をみると、全体、男女ともに減少傾向にある。ただし、2013年調査では子どもの保護者に対して直接スポーツ観戦の有無をたずねたが、2015年調査以降では直接子どもにたずねる方法へ変更したため留意が必要である。

また、**図5-2**の12～21歳では全体の38.3%であり、わが国の12～21歳の直接スポーツ観戦人口は452万人と推計された。性別にみると、男子の観戦率は41.0%、女子は35.4%であり、男子が女子を5.6ポイント上回った。2013年からの推移をみると、全体、男女ともに2013年から2015年にかけて増加したが、2017年には減少し、2017年の直接スポーツ観戦率は2013年と比較するとほぼ同程度である。

表5-1に示す就学状況および学校期別にみると、未就学児22.7%、小学1・2年27.9%、小学3・4年32.3%、小学5・6年35.9%、中学校期39.7%、高校期41.3%、大学期が41.6%と、学校期が上がるにつれて観戦率が高くなる。なお、勤労者は25.4%と未就学児に次いで観戦率が低くなっている。2013年からの推移を概観すると、未就学児と小学校期は観戦率が年々減少し、中学生以上は2015年には増加したものの2017年には減少している。

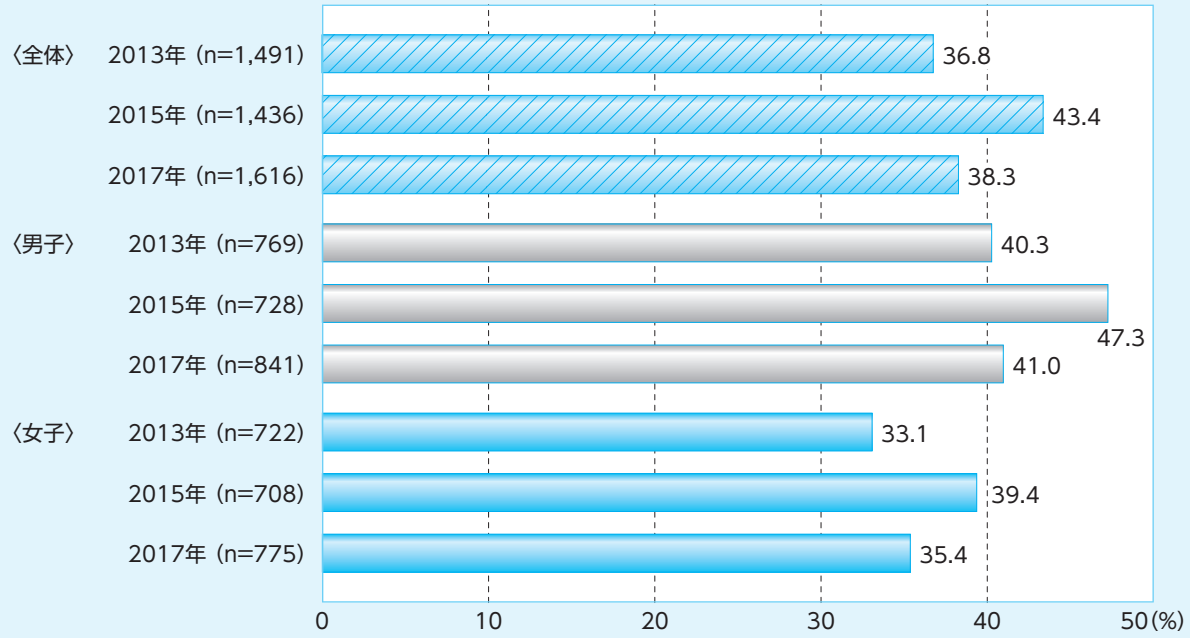


【図5-1】直接スポーツ観戦率の年次推移（4～11歳：全体・性別）

注1）2013年・2015年は「10代のスポーツライフに関する調査」より10歳・11歳のデータを追加して算出
注2）2013年調査の4～9歳は保護者に聴取し、10～11歳は本人に聴取している

資料：笹川スポーツ財団「4～11歳のスポーツライフに関する調査」2017

表5-2には、性別・就学状況および学校期別にみる直接スポーツ観戦率を示した。男子では未就学児25.3%、小学1・2年32.6%、小学3・4年37.0%、小学5・6年41.5%、中学校期43.5%、高校期41.8%、大学期44.9%、女子では未就学児19.7%、小学1・2年22.4%、小学3・4年27.0%、小学5・6年29.6%、中学校期35.1%、高校期40.8%、大学期38.5%と、男女ともに学校期が上がるにつれて直接スポーツ観戦率が増加する傾向にある。女子よりも男子の方が直接スポーツ観戦率は高く、その差は小学5・6年生で11.9ポイントと最大になり、その後高校期には1.0ポイントまで小さくなった後に、大学期では6.4ポイントと再び差が開く。勤労者では男子29.9%、女子19.3%と、男子は未就学児に次いで2番目に、女子は最も低い観戦率となっている。



【図5-2】直接スポーツ観戦率の年次推移（12～21歳：全体・性別）

注）2013年・2015年は「10代のスポーツライフに関する調査」の12～19歳を分析対象とした

資料：笹川スポーツ財団「12～21歳のスポーツライフに関する調査」2017

【表5-1】直接スポーツ観戦率の年次推移（就学状況および学校期別）

2013年		2015年		2017年	
学校期	%	学校期	%	学校期	%
未就学児（n=321）	25.9	未就学児（n=288）	25.0	未就学児（n=304）	22.7
小学1・2年（n=405）	32.8	小学1・2年（n=379）	27.7	小学1・2年（n=319）	27.9
小学3・4年（n=469）	37.7	小学3・4年（n=450）	32.9	小学3・4年（n=415）	32.3
小学5・6年（n=385）	38.4	小学5・6年（n=302）	39.1	小学5・6年（n=510）	35.9
中学校期（n=580）	36.7	中学校期（n=506）	41.9	中学校期（n=536）	39.7
高校期（n=552）	40.8	高校期（n=530）	48.5	高校期（n=475）	41.3
大学期（n=196）	33.7	大学期（n=225）	43.1	大学期（n=358）	41.6
勤労者（n=85）	18.8	勤労者（n=89）	29.2	勤労者（n=205）	25.4

注）大学期・勤労者：2013年・2015年は「10代のスポーツライフに関する調査」の19歳までを分析対象とした

資料：笹川スポーツ財団「4～11歳のスポーツライフに関する調査」2017、「12～21歳のスポーツライフに関する調査」2017

【表5-2】直接スポーツ観戦率の年次推移（性別×就学状況および学校期別）

男子					
2013年		2015年		2017年	
学校期	%	学校期	%	学校期	%
未就学児（n=176）	26.1	未就学児（n=151）	28.5	未就学児（n=162）	25.3
小学1・2年（n=220）	35.0	小学1・2年（n=204）	26.5	小学1・2年（n=172）	32.6
小学3・4年（n=221）	46.6	小学3・4年（n=217）	37.3	小学3・4年（n=219）	37.0
小学5・6年（n=213）	46.5	小学5・6年（n=152）	50.0	小学5・6年（n=270）	41.5
中学校期（n=305）	45.9	中学校期（n=276）	48.9	中学校期（n=294）	43.5
高校期（n=278）	42.4	高校期（n=272）	52.6	高校期（n=237）	41.8
大学期（n=86）	26.7	大学期（n=92）	39.1	大学期（n=176）	44.9
勤労者（n=50）	18.0	勤労者（n=39）	25.6	勤労者（n=117）	29.9

女子					
2013年		2015年		2017年	
学校期	%	学校期	%	学校期	%
未就学児（n=145）	25.5	未就学児（n=137）	21.2	未就学児（n=142）	19.7
小学1・2年（n=185）	30.3	小学1・2年（n=175）	29.1	小学1・2年（n=147）	22.4
小学3・4年（n=248）	29.8	小学3・4年（n=233）	28.8	小学3・4年（n=196）	27.0
小学5・6年（n=172）	28.5	小学5・6年（n=150）	28.0	小学5・6年（n=240）	29.6
中学校期（n=275）	26.5	中学校期（n=230）	33.5	中学校期（n=242）	35.1
高校期（n=274）	39.1	高校期（n=258）	44.2	高校期（n=238）	40.8
大学期（n=110）	39.1	大学期（n=133）	45.9	大学期（n=182）	38.5
勤労者（n=35）	20.0	勤労者（n=50）	32.0	勤労者（n=88）	19.3

注）大学期・勤労者：2013年・2015年は「10代のスポーツライフに関する調査」の19歳までを分析対象とした
資料：笹川スポーツ財団「4～11歳のスポーツライフに関する調査」2017、「12～21歳のスポーツライフに関する調査」2017

5-2 直接観戦したスポーツ

直接観戦したスポーツは、**表5-3**に示す4～11歳では「プロ野球（NPB）」が11.7%と最も高く、次いで「Jリーグ（J1、J2、J3）」6.4%、「プロゴルフ」と「プロバスケットボール（Bリーグ、bjリーグ）」が同率2.4%、「高校野球」と「バスケットボール（高校、大学、NBL、WJBLなど）」が同率2.3%であった。

性別にみると、男女ともに「プロ野球（NPB）」（男子14.7%、女子8.3%）が最も観戦率が高い。次いで、男子では「Jリーグ（J1、J2、J3）」8.5%、「高校野球」2.8%であり、女子では「Jリーグ（J1、J2、J3）」4.0%、「バスケットボール（高校、大学、NBL、WJBLなど）」2.3%であった。

就学状況別にみると、いずれの学年も「プロ野球（NPB）」（未就学児6.3%、小学1・2年12.2%、小学3・4年12.3%、小学5・6年14.5%）の観戦率が最も高く、次いで、「Jリーグ（J1、J2、J3）」（未就学児3.9%、小学1・2年5.0%、小学3・4年6.7%、小学5・6年8.6%）であった。いずれの学年も同様の種目が上位を占め、学年が上がるにつれてその観戦率は高くなる。

また、**表5-4**に示す12～21歳では「プロ野球（NPB）」

の観戦率が12.9%と最も高く、次いで「高校野球」10.0%、「Jリーグ（J1、J2、J3）」6.5%、「サッカー（高校、大学、JFLなど）」5.2%、「バスケットボール（高校、大学、NBL、WJBLなど）」3.9%であった。

性別にみると、男女ともに「プロ野球（NPB）」（男子16.2%、女子9.4%）の観戦率が最も高く、次いで「高校野球」（男子11.3%、女子8.5%）であった。以下、男子は「Jリーグ（J1、J2、J3）」9.5%、「サッカー（高校、大学、JFLなど）」6.3%が続き、女子は「バスケットボール（高校、大学、NBL、WJBLなど）」5.2%、「バレーボール（高校、大学、Vリーグなど）」4.8%と続く。

学校期別にみると、高校期を除いて「プロ野球（NPB）」（中学校期15.7%、大学期16.8%、勤労者8.8%）の観戦率が最も高い。高校期では「高校野球」が16.0%と最も高く、2位の「プロ野球（NPB）」9.1%と約7ポイントの差があった。

【表5-3】4～11歳の直接観戦したスポーツ（全体・性別・就学状況別：複数回答）

(%)

順位	種　目	全体 (n=1,561)	男子 (n=834)	女子 (n=727)	未就学児 (n=304)	小学1・2年 (n=319)	小学3・4年 (n=415)	小学5・6年 (n=510)
1	プロ野球（NPB）	11.7	14.7	8.3	6.3	12.2	12.3	14.5
2	Jリーグ（J1、J2、J3）	6.4	8.5	4.0	3.9	5.0	6.7	8.6
3	プロゴルフ	2.4	2.6	2.1	1.6	1.9	1.4	3.9
	プロバスケットボール（Bリーグ、bjリーグ）	2.4	2.6	2.1	1.6	1.9	1.4	3.9
5	高校野球	2.3	2.8	1.8	1.3	0.6	3.4	3.1
	バスケットボール（高校、大学、NBL、WJBLなど）	2.3	2.3	2.3	1.6	1.9	2.7	2.7
7	サッカー（高校、大学、JFLなど）	1.8	1.7	1.9	1.6	1.9	1.9	1.8
8	格闘技（ボクシング、総合格闘技など）	1.7	2.0	1.4	1.0	1.3	1.9	2.4
	マラソン・駅伝	1.7	1.9	1.4	3.0	0.9	1.2	1.8
10	アマチュア野球（大学、社会人など）	1.3	1.6	1.0	1.0	2.2	1.2	1.0
	直接みたことはない	69.6	65.2	74.6	77.3	72.1	67.7	64.1

資料：笹川スポーツ財団「4～11歳のスポーツライフに関する調査」2017

【表5-4】12～21歳の直接観戦したスポーツ（全体・性別・学校期別：複数回答）

(%)

順位	種　目	全体 (n=1,616)	男子 (n=841)	女子 (n=775)	中学校期 (n=536)	高校期 (n=475)	大学期 (n=358)	勤労者 (n=205)
1	プロ野球（NPB）	12.9	16.2	9.4	15.7	9.1	16.8	8.8
2	高校野球	10.0	11.3	8.5	6.0	16.0	11.2	4.4
3	Jリーグ（J1、J2、J3）	6.5	9.5	3.2	8.0	4.8	8.9	3.4
4	サッカー（高校、大学、JFLなど）	5.2	6.3	4.0	4.5	7.2	6.1	1.5
5	バスケットボール（高校、大学、NBL、WJBLなど）	3.9	2.7	5.2	2.8	6.1	3.9	1.5
6	バレーボール（高校、大学、Vリーグなど）	3.5	2.4	4.8	1.7	6.5	3.6	1.5
7	マラソン・駅伝	3.0	3.0	3.1	4.3	1.9	3.6	1.5
8	プロバスケットボール（Bリーグ、bjリーグ）	2.8	2.6	3.0	4.9	1.9	2.0	1.5
9	アマチュア野球（大学、社会人など）	2.0	2.0	2.1	2.1	1.7	3.1	1.5
10	ラグビー	1.9	2.1	1.5	1.1	2.7	2.0	2.0
	直接みたことはない	61.7	59.0	64.6	60.3	58.7	58.4	74.6

資料：笹川スポーツ財団「12～21歳のスポーツライフに関する調査」2017

5-3 スポーツのテレビ観戦状況

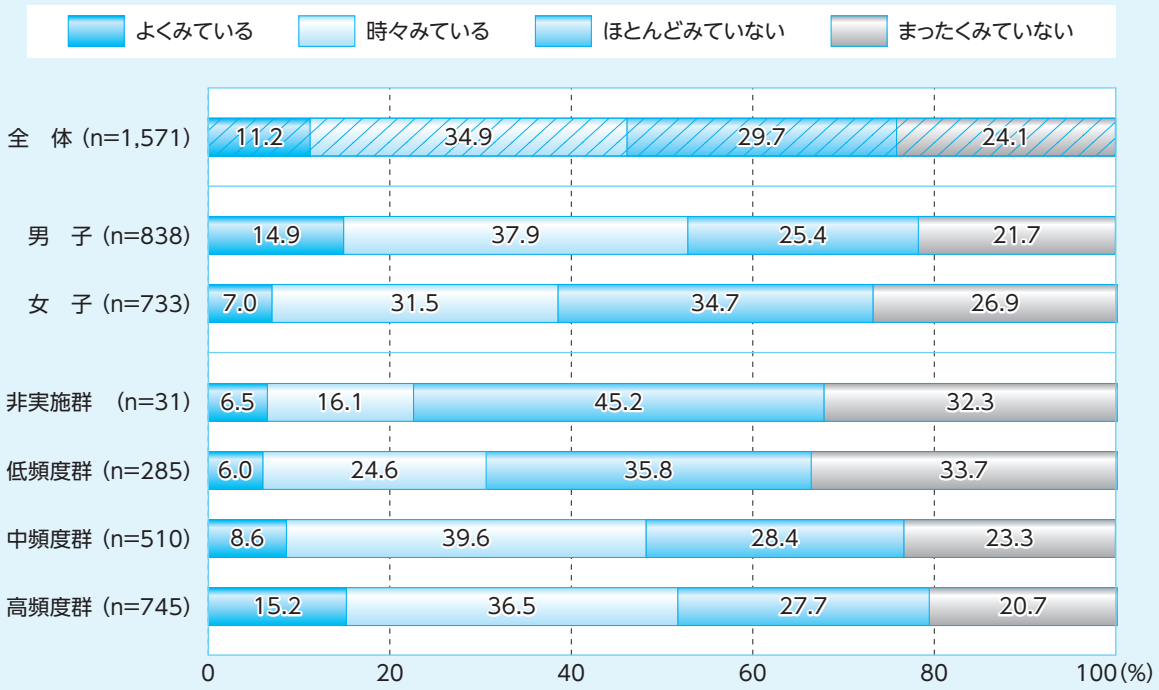
4～11歳に対して、テレビでのスポーツ観戦状況として「あなたは、普段テレビでスポーツの試合をみていますか」とたずね、「よくみている」「時々みている」「ほとんどみていない」「まったくみていない」の4段階で回答を求めた。

図5-3に示す全体では「時々みている」34.9%が最も多く、次いで「ほとんどみていない」29.7%、「まったくみていない」24.1%、「よくみている」11.2%であった。「よくみている」と「時々みている」の割合を合計すると46.1%であり、わが国の4～11歳の子どものテレビスポーツ観戦人口は398万人と推計できる。

性別にみると、男子は「時々みている」37.9%が、女子は「ほとんどみていない」34.7%が最も多い。「よくみている」と「時々みている」を合計した割合は、男子52.8%、女子38.5%であり、男子が女子を14.3ポイント上回る。直接スポーツ観戦と同様、テレビでのスポーツ観戦においても女子に比べて男子の方が観戦率は高かった。

運動・スポーツ実施頻度群別にみると「よくみている」と「時々みている」を合計した割合は非実施群22.6%、低頻度群30.6%、中頻度群48.2%、高頻度群51.7%であり、運動・スポーツの実施頻度が高い者ほどテレビでのスポーツ観戦率も高かった。

図5-4に示す就学状況別にみると「よくみている」と「時々みている」を合計した割合は未就学児22.3%、小学1・2年39.8%、小学3・4年53.1%、小学5・6年59.4%と学年進行にともなって観戦率は高くなる。2013年・2015年調査と比較すると、いずれの学年も「よくみている」と「時々みている」を合計した割合は2015年に増加した後に2017年は減少しており、特に未就学児の減少が顕著である。ただし直接スポーツ観戦と同様、2013



【図5-3】テレビスポーツ観戦率（4～11歳：全体・性別・頻度群別）

資料：笹川スポーツ財団「4～11歳のスポーツライフに関する調査」2017

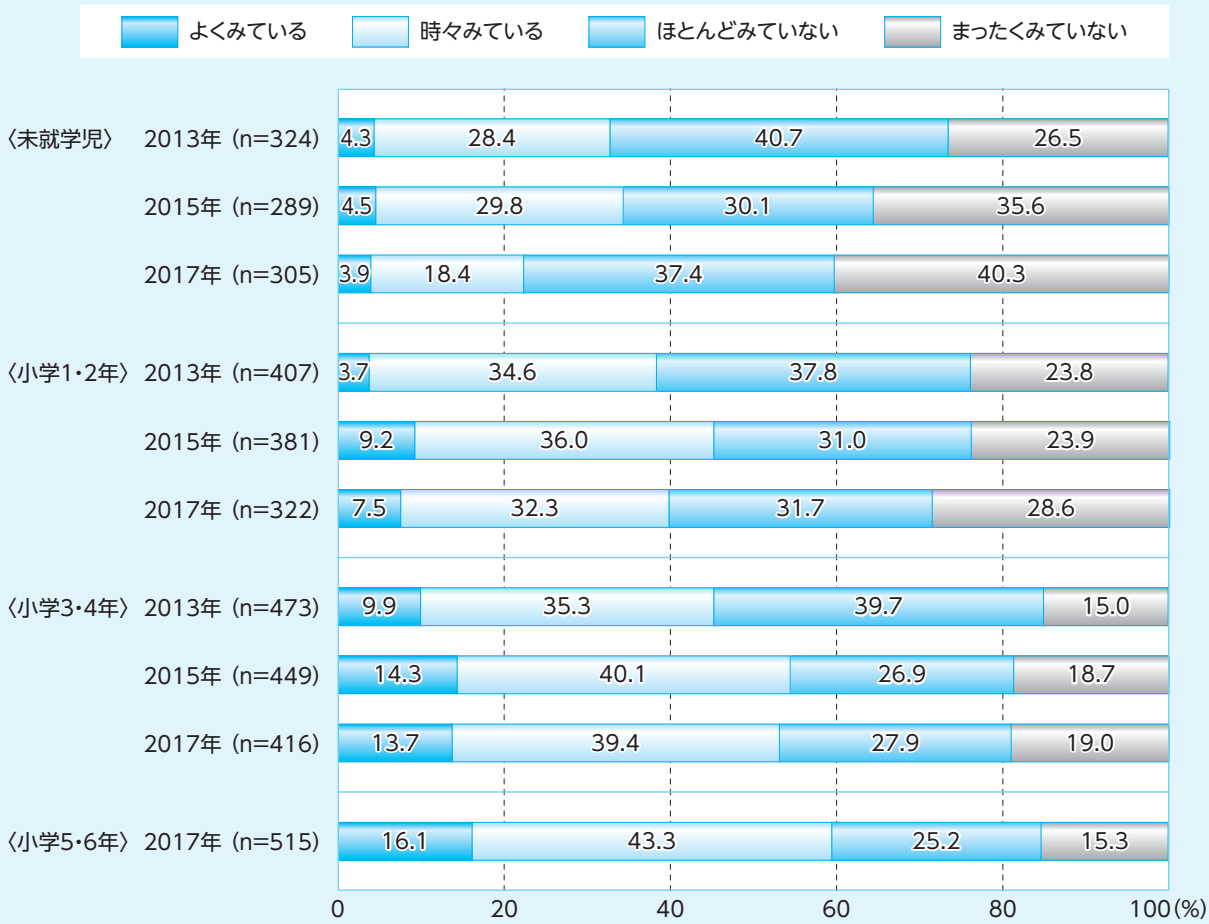
年調査では子どもの保護者に対してテレビスポーツ観戦の有無をたずねたが、2015年調査以降では直接子どもにたずねる方法へ変更したため留意が必要である。また、小学5・6年の2013年・2015年調査は観戦した種目を複数選択する方法にて聴取しており、2017年調査とは聴取方法が異なるため、図中には掲載していない。

12～21歳に対しては、過去1年間にテレビで観戦したスポーツを種目の一覧から複数回答で選択する方法でたずね、**図5-5**に示すテレビスポーツ観戦率を算出した。過去1年間にテレビでスポーツの試合を観戦した者は全体の82.9%であり、わが国の12～21歳のテレビスポーツ観戦人口は978万人と推計された。

性別にみると、男子85.4%、女子80.2%であり、男子が女子を5.2ポイント上回る。

運動・スポーツ実施レベル別にみると、「レベル0」65.4%、「レベル1」82.2%、「レベル2」81.4%、「レベル3」87.0%、「レベル4」91.9%であり、「レベル2」でやや落ち込みがあるものの、概ねレベルが上がるにつれて観戦率は増加する。

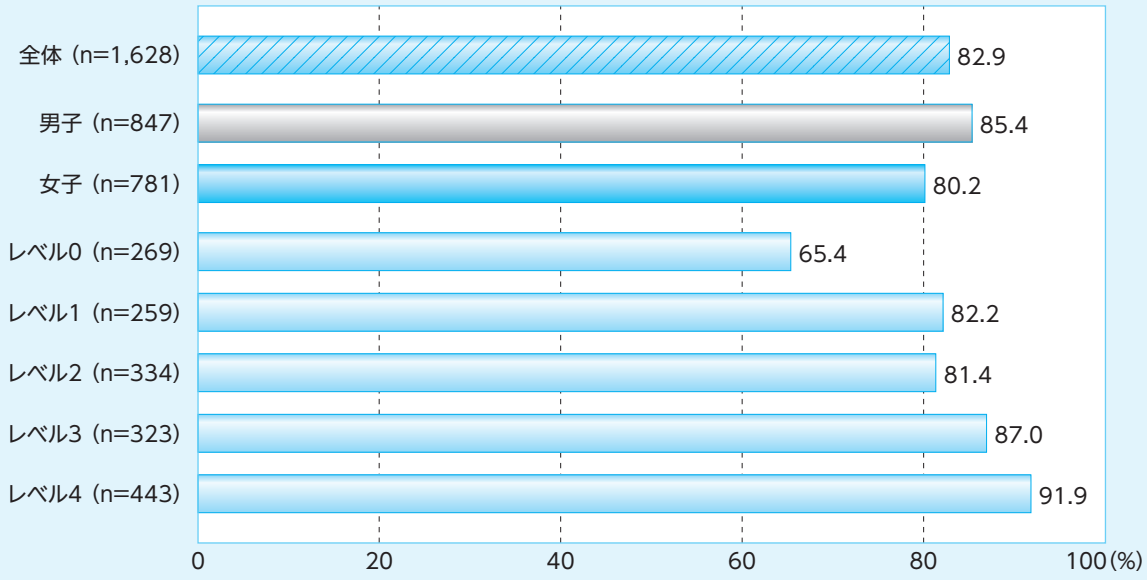
図5-6に示す学校期別にみると、中学校期が86.0%で最も高く、次いで高校期83.8%、大学期82.0%、勤労者76.0%であり、学校期が上がると観戦率は減少する。2013年・2015年調査と比較すると、勤労者を除いた学校期では2013年から2017年にかけて微減している。



【図5-4】テレビスポーツ観戦率の年次推移（4～11歳：就学状況別）

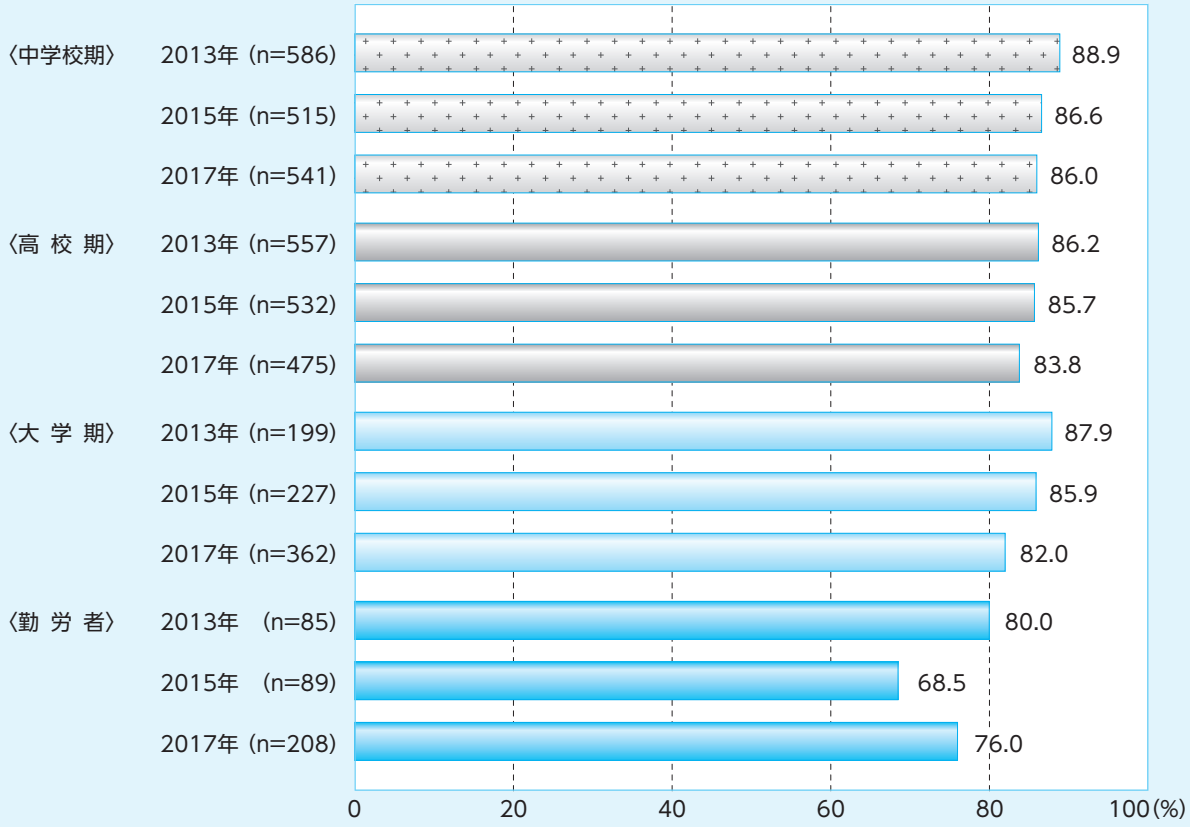
注1）2013年調査は保護者に聴取している
注2）小学5・6年の2013年・2015年調査は観戦した種目を複数選択する方法で聴取しており、2017年調査とは聴取方法が異なるため、図中には掲載していない

資料：笹川スポーツ財団「4～11歳のスポーツライフに関する調査」2017



【図5-5】テレビスポーツ観戦率（12～21歳：全体・性別・レベル別）

資料：笹川スポーツ財団「12～21歳のスポーツライフに関する調査」2017



【図5-6】テレビスポーツ観戦率の年次推移（12～21歳：学校期別）

注）大学期・勤労者：2013年・2015年は「10代のスポーツライフに関する調査」の19歳までを分析対象とした

資料：笹川スポーツ財団「12～21歳のスポーツライフに関する調査」2017

5-4 スポーツのテレビ観戦種目

表5-5には、12～21歳が過去1年間にテレビで観戦したスポーツを示した。全体では「プロ野球（NPB）」が51.7%と最も高く、次いで「高校野球」39.7%、「サッカー日本代表試合（五輪代表を含む）」39.5%、「フィギュアスケート」34.8%、「プロテニス」と「マラソン・駅伝」が同率で25.2%であった。

性別にみると、男子は「プロ野球（NPB）」59.3%が最も高く、次いで「サッカー日本代表試合（五輪代表を含む）」48.4%、「高校野球」45.0%、「Jリーグ（J1、J2、J3）」30.2%となり、野球とサッカーの人気が高い。女子も男子と同様に野球とサッカーのテレビ観戦率が高いが、最も高い観戦率を示したのは「フィギュアスケート」47.1%であり、女子のフィギュアスケート人気がわかる。また、多くの種目で女子よりも男子のテレビ観戦率が高いが「フィギュアスケート」のほか、「バレーボール女子日本代表試合（火の鳥NIPPON）」（男子15.9%、女子26.9%）、「マラソン・駅伝」（男子24.7%、女子25.7%）は女子の観戦率が高い特徴的な種目である。

表5-6には、今回調査において全体のテレビ観戦率が高かった上位5種目に着目し、学校期別にみた観戦率の年次推移を示した。いずれの学校期においても「プロ野球（NPB）」が最も高いが、中学校期は「サッカー日本代表試合（五輪代表を含む）」、高校期と大学期は「高校野球」と、続く種目には学校期による違いがみられる。勤労者は「高校野球」と「サッカー日本代表試合（五輪代表を含む）」が同率であった。

次に、12～21歳に今後テレビで観戦したいスポーツをたずねた。**表5-7**に示す全体をみると「プロ野球（NPB）」が30.7%で最も高く、次いで「サッカー日本代表試合（五輪代表を含む）」26.8%、「高校野球」26.0%、「フィギュアスケート」21.7%、「バレーボール女子日本代表試合（火の鳥NIPPON）」18.0%であった。一方で、今後「テレビでみたいスポーツはない」と回答した者は31.0%であった。

性別にみると、男子は「プロ野球（NPB）」38.9%、「サッカー日本代表試合（五輪代表を含む）」33.8%、「高校野球」31.6%と野球・サッカーのテレビ観戦希望率が高い。女子では「フィギュアスケート」が33.1%と最も高い。

【表5-5】12～21歳のテレビで観戦したスポーツ（全体・性別：複数回答）

(%)

順位	種　目	全　体 (n=1,628)	男　子 (n=847)	女　子 (n=781)
1	プロ野球（NPB）	51.7	59.3	43.4
2	高校野球	39.7	45.0	34.1
3	サッカー日本代表試合（五輪代表を含む）	39.5	48.4	29.8
4	フィギュアスケート	34.8	23.4	47.1
5	プロテニス	25.2	27.3	23.0
	マラソン・駅伝	25.2	24.7	25.7
7	バレーボール女子日本代表試合（火の鳥NIPPON）	21.2	15.9	26.9
8	Jリーグ（J1、J2、J3）	21.1	30.2	11.3
9	大相撲	18.3	21.5	14.9
10	海外のプロサッカー（ヨーロッパ、南米など）	15.7	23.1	7.6
	テレビで観戦したスポーツはない	17.1	14.6	19.8

資料：笹川スポーツ財団「12～21歳のスポーツライフに関する調査」2017

次いで「バレーボール女子日本代表試合（火の鳥NIPPON）」22.9%が高く、男子と比較すると種目に大きな違いがみられる。

表5-8には、今回の2017年調査において全体のテレビ観戦希望率の高かった上位5種目を学校期別に示した。いずれの学校期も「プロ野球（NPB）」の観戦希望率が最も高い。また「テレビでみたいスポーツはない」は、勤労者が38.5%と最も高く、次いで高校期32.0%、大学期28.5%、中学校期28.1%であった。

【表5-6】12～21歳のテレビで観戦したスポーツ（学校期別：複数回答）

（%）

順位	種目	中学校期			高校期			大学期			勤労者		
		2013 (n=586)	2015 (n=515)	2017 (n=541)	2013 (n=557)	2015 (n=532)	2017 (n=475)	2013 (n=199)	2015 (n=227)	2017 (n=362)	2013 (n=85)	2015 (n=89)	2017 (n=208)
1	プロ野球（NPB）	51.7	51.8	58.0	53.1	50.0	50.1	52.8	46.3	51.1	45.9	34.8	41.3
2	高校野球	35.3	38.6	38.8	40.0	43.2	41.1	41.7	41.9	45.9	28.2	32.6	31.3
3	サッカー日本代表試合（五輪代表を含む）	60.9	47.4	43.1	57.6	47.4	39.8	66.3	50.7	39.0	45.9	30.3	31.3
4	フィギュアスケート	39.2	40.0	35.7	30.7	39.1	36.8	41.7	41.9	38.7	24.7	20.2	22.1
5	プロテニス	17.1	34.6	28.1	14.4	32.5	25.3	17.6	37.0	28.5	7.1	19.1	12.0
	マラソン・駅伝	30.9	30.5	29.6	26.6	26.5	24.2	26.6	28.2	27.6	18.8	11.2	14.4
	テレビで観戦したスポーツはない	11.1	13.4	14.0	13.8	14.3	16.2	12.1	14.1	18.0	20.0	31.5	24.0

注1）順位は2017年調査における全体の観戦率が高かった上位5種目
注2）大学期・勤労者：2013年・2015年は「10代のスポーツライフに関する調査」の19歳までを分析対象とした
注3）回答選択肢（その他除く）は、2013年・2015年調査17種目、2017年調査23種目とした

資料：笹川スポーツ財団「12～21歳のスポーツライフに関する調査」2017

COMMENTS

■生涯続けられるスポーツに出会えたら幸せだと思う。生でのスポーツ観戦は最高だけど、テレビでも感激できる。（21歳女子の母親）

■プロのスポーツを直接みてみたいが、近くで試合がないのでぜひともやってほしい。（10歳男子の母親）

■スポーツが苦手な子どもに無理にスポーツをさせる必要はないと思うが、スポーツを観戦したり応援したり、選手のことを知って楽しんだりと自分のできる範囲でかかわれる機会が増えると良いと思う。（13歳女子の母親）

■習いごととしてのスポーツ環境はあるが、その他の地域スポーツの環境は希薄になっていると思う。いろんなスポーツがあることを子どもにも知ってほしい。身近に感じられるイベントや体験会、プロの試合も地方開催をどんどんやってほしい。イベントがあれば積極的に参加しようと思う。（8歳女子の母親）

資料：笹川スポーツ財団「4～11歳のスポーツライフに関する調査」2017、「12～21歳のスポーツライフに関する調査」2017

【表5-7】12～21歳のテレビで観戦したいスポーツ（全体・性別：複数回答）

(%)

順位	種　目	全　体 (n=1,624)	男　子 (n=848)	女　子 (n=776)
1	プロ野球（NPB）	30.7	38.9	21.8
2	サッカー日本代表試合（五輪代表を含む）	26.8	33.8	19.2
3	高校野球	26.0	31.6	19.8
4	フィギュアスケート	21.7	11.3	33.1
5	バレーボール女子日本代表試合（火の鳥NIPPON）	18.0	13.4	22.9
6	プロテニス	16.4	18.2	14.4
7	バレーボール日本代表試合（龍神NIPPON）	14.2	12.9	15.6
8	Jリーグ（J1、J2、J3）	14.0	20.9	6.6
9	海外のプロサッカー（ヨーロッパ、南米など）	13.9	20.9	6.2
10	メジャーリーグ（アメリカ大リーグ）	12.7	19.2	5.7
	テレビでみたいスポーツはない	31.0	27.7	34.5

資料：笹川スポーツ財団「12～21歳のスポーツライフに関する調査」2017

【表5-8】12～21歳のテレビで観戦したいスポーツ（学校期別：複数回答）

(%)

順位	種　目	中学校期			高校期			大学期			勤労者		
		2013 (n=583)	2015 (n=512)	2017 (n=541)	2013 (n=556)	2015 (n=528)	2017 (n=475)	2013 (n=199)	2015 (n=226)	2017 (n=361)	2013 (n=85)	2015 (n=90)	2017 (n=205)
1	プロ野球（NPB）	23.0	30.1	30.9	23.7	29.2	27.4	22.1	30.1	37.1	14.1	20.0	26.3
2	サッカー日本代表試合（五輪代表を含む）	28.5	31.8	27.7	31.8	34.7	24.8	34.7	39.4	30.2	24.7	22.2	24.4
3	高校野球	18.0	24.4	22.7	26.4	30.9	26.3	25.1	29.6	34.1	12.9	26.7	21.0
4	フィギュアスケート	15.4	24.4	20.9	14.4	24.1	21.1	20.6	29.6	28.3	8.2	13.3	14.6
5	バレーボール女子日本代表試合（火の鳥NIPPON）	—	—	13.7	—	—	20.6	—	—	23.3	—	—	13.7
	テレビでみたいスポーツはない	31.9	28.7	28.1	34.0	27.7	32.0	34.7	25.7	28.5	40.0	44.4	38.5

注1）順位は2017年調査における全体の観戦希望率が高かった上位5種目
注2）回答選択肢（その他除く）は、2013年・2015年調査17種目、2017年調査23種目とした
注3）「—」は回答選択肢になかった種目
注4）大学期・勤労者：2013年・2015年は「10代のスポーツライフに関する調査」の19歳までを分析対象とした

資料：笹川スポーツ財団「12～21歳のスポーツライフに関する調査」2017